



DMI 国際ろう者支援協会 日本

2022 年 春号

エマニュエルさんが恩赦を受けました

ザンビアから素晴らしいニュースです。不当にも殺人罪で収監され、無実の罪で14年間で獄中で過ごしたろう者のエマニュエル・バンダさんが、長年の訴えの末、恩赦を受け釈放されました！(義兄の策略にはめられた彼はずっと無罪を主張していましたが、文盲のろう者であったため、通訳や適切な弁護を受けることができず、有罪となっていました。)しかし、今は恩赦を受けて自由の身です。私たちはこのことにとても感謝しています。ネヴィルは何度もザンビアに足を運び、エマニュエルさんの釈放のために懸命に嘆願していたので、このことを喜んでいるでしょう。ルイスが



お祝いするルイスとエマニュエルさん

エマニュエルさんを刑務所へ迎えに行き、エマニュエルさんは一時的にルイスの家に滞在しています。

アフリカのシニアアドバイザーであるサム・ベグミサ氏の指導のもと、エマニュエルさんがカンパラのDMI聖書学校に入学することで、彼の将来のために支援できるようにと考えています。これにより、彼が働き、自立するために必要な基礎学力が身につくと信じています。さらに重要なことは、厳しい生活と不当な投獄の後で、エマニュエルさんには霊的なリハビリと指導や助言が必要だということで、聖書学校は彼に必要なものを提供できることです。聖書学校は少人数制で、彼に必要な個人的な配慮や支援が提供できます。卒業後、エマニュエルさんには職業訓練校の選択肢もあります。彼の新しい生活が成功するよう、私たちは祈っています。

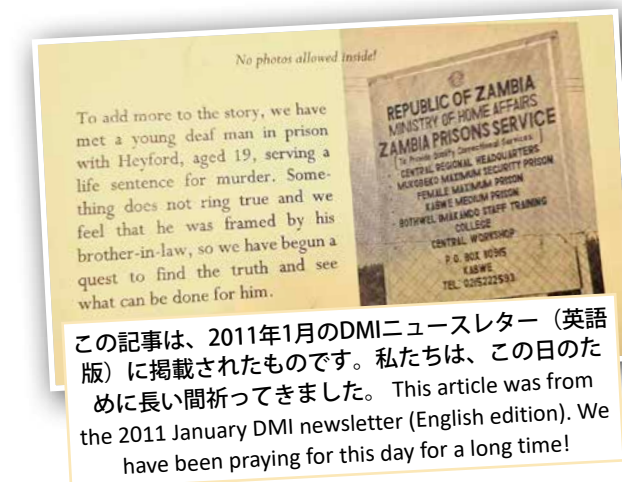
ケニア

成長する統合学校

ケニアにあるインマヌエルろう学校 (ISD) は、健聴者とろう者が同じ学習環境で学ぶ統合学校となりました。これは、ケニア政府が推奨する新しい教育手法の一つです。ろう者を健聴者の学校に統合するのではなく、健聴者を既存のろう学校に統合する取り組みです。クラスは分離されていますが、全生徒が手話を学びます。現在、ISDでは、健聴者126名に対し、約90名のろう者の生徒が在籍しています。学校の独自性と特徴を保つために健聴者の生徒数は制限されていますが、そのおかげで、このプログラム



ISDの子どもたち
Kids at ISD



この記事は、2011年1月のDMIニュースレター (英語版) に掲載されたものです。私たちは、この日のために長い間祈ってきました。This article was from the 2011 January DMI newsletter (English edition). We have been praying for this day for a long time!



Deaf Ministries International

DMI 日本主部

Web: <http://japan.deafmin.org>

Email: info@japan.deafmin.org

Tel/Fax:

(代表: 真舛嶺) 075-871-8562

(スポンサーシップ: マイクセン) 090-4307-0717

(会計: マーシャル) 06-4980-5414

郵便 (真舛嶺・アレイン宛):

616-8228 京都市右京区常盤下田 20-615

DMI 国際本部 (オーストラリア)

Web: <http://deafmin.org>

Email: muir@deafmin.org

P.O. Box 395 Beaconsfield Vic. 3807 Australia

Tel: +61-3-5940-5430

Fax: +61-3-5940-5432

の人気は高まるばかりです。参加を希望する生徒とその家族は、列をなしています。

インマヌエル・スクールのためのボランティア

DMIの学校や教会では、いつでもボランティアを歓迎しています。北尾キャシーさんが、日本からケニアのインマヌエルろう学校 (ISD) へ支援に来てく



キャシーさん Kathi

ださることになり、本当に嬉しく思っています。3年前、キャシーさんは妹のカレン・セッテさんとDMI日本理事長のアレン・マドレと共に、アフリカのDMIの活動を視察に来られました。キャシーさんは学校の活動に感銘を受け、京都の同志社女子大学の教授職を定年退職後、ボランティアとして戻ってきたいと申し出されました。彼女は

2021年3月に定年退職しましたが、コロナウイルスまん延の状況のため、出発が遅れています。彼女は4月末に出発し3ヶ月間滞在する予定です。キャシーさんは次のように書いています。

ケニア政府が能力主義の教育カリキュラムに移行するため、インマヌエル・スクールの新カリキュラムの開発の手伝いを依頼されました。また、多読プログラムを立ち上げ、英語の先生方とワークショップを行い、このプログラムを実施する手助けをする予定です。それで、多読ライブラリーのための本の寄付を募っています。さらに、1対1や少人数のグループで生徒を指導することや、学校が望むことなら何でもやりたいと思っています。私自身は、日常的に手話をするので、手話の能力を向上させたいと考えています。神様が私を用いてくださるよう祈っています。

マラウイでの災害

1月下旬、サイクロン「アナ」はマラウイに甚大な被害をもたらし、DMIスタッフやろう者のコミュニティの建物、家、畑、家畜などを破壊しました。

私たちはすぐに500ドルを送り、エルトン理事が食料と水を購入できるようにしました。

- 200世帯のろう者がホームレスとなり、食料、毛布、仮設住宅用のプラスチックなどを必要としています。
- ミゴウィの職業訓練センターでは、屋根、トイレ、防犯用フェンス、寮が破壊されました。
- チクワワとゾンバの教会堂が破壊されました。
- 自給自足基金で開墾した3つの畑のうち、2つの畑に植えていた作物が全滅しました。

これらを修理・交換するための見積もり額は400万円以上です。すでに200万円近くが集められていることに感謝します。日本から送金できるようにしたいと思っています。

エルトン理事の個人的な報告ですが、自宅と家財道具一式、ろう者教育に使っているプロジェクター、道具類、自転車、そして生計を立てていた牛6頭とヤギ10頭を失いました。

しかし、良い報告は、人命が失われていないことです。これについては本当に感謝しています。



DMI場所の被害
DMI areas' damage



ダバオ校の閉校

この度、残念ながらダバオ校が2022年3月31日をもって閉校となることをご報告します。ダバオ校は長年にわたりDMIの旗艦校として、最盛期には100人以上のろう者が学び、生活してきました。多くのろう者がこの学校を卒業し、学校とつながりのあるろう者教会の一員となり、この学校で受けた教育によって有意義な人生を歩んでいることに感謝しています。



2008年のダバオの学生たち
Davao students in 2008

ジョシュアとジョセリン・アスエラは、この学校で学ぶ多くのろう者の子どもの親のような存在であり、子どもたちを教育し、導き、世話をするという素晴らしい仕事をしてきました。二人の勤勉さ、技



アスエラ夫妻
The Asuelas

術、そして大きな心で学校が運営されていたことを神様に感謝します。

ここ数年、この地域に別のろう学校ができたこと、物流が変化したこと、さらに最近ではパンデミックに

より生徒数が激減したことから、学校を継続して運営することができなくなりました。残った数名の生徒は他の学校へ案内され、この学校の生徒のスポンサーの皆様には既にDMIの他の学校の生徒の支援をご案内しています。支援してくださる方々の継続的な援助に感謝しています。

デフ・ミニストリーズ・インスティテュートは現在校舎の売却を進めており、この売却のためにお祈りいただければ幸いです。ダバオ・インマヌエルろう者教会は、新しい場所は未定ですが、働きは継続されます。

DMIにとってもアスエラ家にとっても困難な時期ですが、主を愛する者にはすべてのことが益に働くということを知っています。皆様の継続的な尊いお祈りに感謝します。

ウガンダ

職業訓練プログラム

今年度は男女4名ずつ、計8名のろう者が参加し、順調に馴染んできています。昨年度卒業した学生も今は職に就いています。前回のニュースレターでお願いした資金援助にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。コースに必要な資金の半分以上が集まりました。職業訓練生は全員、毎週日曜日にろう教会に通い、



ダバオ学校のビル
Davao school building

コース期間中は聖書の教えを受けています。今年の学生たちが、職業を学ぶだけでなく、主を知ることができるようになることを祈っています。

リラ学校の急成長

パンデミックも和らぎ、ウガンダのリラにあるネヴィル・ミュアー総合学校では、デニス監督のもと多くの生徒が戻ってきて素晴らしい限りです。現在、登録生徒数は350名に達しています。このうち80人以上がろう者で、270人がその他の障害や特別なケアを必要としています。これほど多くの生徒が職業訓練を受けに来たのは初めてです。このような若い人たちの人生に変化をもたらすことができるのは、とても素晴らしいことです。



ネヴィル・ミュアー総合学校
Neville Muir Comprehensive School

しかし、これだけ多くの生徒が集まるということは、同時に試練をももたらします。生徒のために十分な教室がないのです。3月から雨季に入り、政府から適切な施設を建設するよう要求されているため、木の下での授業を続けることはもうできないのです。4つの教室を建設するための見積もり額は、500万円です。

フィリピン：リガオに実りあり！

今年は台風が来なかったため、スタッフも生徒も感謝しています。そのおかげで、農作物は実り豊かなものとなりました。パイナップル、バナナ、キャッサバ、タロイモ、ショウガが植えられました。育てたマホガニーの苗は、農園との境界



職業訓練プログラムの開講式
Internship program opening ceremony

に植える準備が整いました。

レモンや在来種のオレンジは順調に生育しており、現在実を付けているものもあります。収穫した米は精米にして販売しました。さらに、農場の動物たちも、みんな元気です。ある家畜は販売し、ある家畜は繁殖用に育てています。



リガオの屋根修理
Ligao roof repair

このような自立の様子を見られるのは素晴らしいことです。また、去年の台風で被害を受けた建物の修理の多くが、ろう者の職人によって行われていることも喜ばしいことです。教会、学校、雇用プログラムを通じて、ろう者の意欲、生産性、尊厳が実際に高まっているのを実感しています。



農作物と子豚
Produce and piglets



DMI日本、新組織構成

この半年間、DMI日本はより効果的かつ効率的に活動を遂行するため、また、若い人たちの新しいアイデアを取り入れるため、調整を行いました。大きな「ワーキングボード（働く理事）」ではなく、より小さな「ボード（理事）」と「ボランティアチーム（奉仕者チーム）」に分けられました。元役員のほとんどはボランティアチームに移りましたが、新しいメンバーも加わったことをお知らせします。

理事会

- **アレイン・マドレ**：30年以上前にネヴィルが理事会を設立したときの創設メンバーで、現在に至るほとんどの期間、理事長を務めています。個人的に彼女のことを知っている人も多いです。
- **ジャックと恵子・マーシャル**：DMIの宣教師であるジャックは、DMIが設立された当時、大阪インターナショナルチャーチ（OIC）の牧師であり、以来、DMIと関わりを持っています。恵子はDMI日本の財務を務めています。
- **デーブ・テイラー** NEW!：DMIの新役員です。現在、日本での取り組みや活動において、アレインと共に連絡や調整を行っています。京都の大学で経営学を教えています。その他にも理事会をリードするのに適した経験が豊富なので、将来理事長になる可能性があります。DMIを通して、ろう者のために学び、奉仕することを楽しみにしています。
- **レリョーサ真美子** NEW!：現在、OICの秘書からDMIの運営と翻訳という働きに移行中です。OICにろう者の友人がいることから、DMIの活動に参加することに情熱を持っています。

ボランティアチーム（一部）

- **カレン・エルリック**：長年DMI日本の理事を務めました。技術やデザイン担当の働きを継続するほか、技術に関わる仕事で新メンバーを教育します。
- **ネイサンとインゲ・マイケルセン**：長年DMI日本の理事を務めました。祈りとスポンサーシップに関連する活動を引き続き支援します。
- **トニー・バレラ** NEW!：教会を訪問し、DMIを日本国内でもっと知らせる活動を展開します。
- **ワンダース・ファトバ** NEW!：祈りに情熱を注いでいます。新しい祈り課題に率先して取り組みます。

他にもボランティアはいますが、役割はまだ確立されていないため、随時ご紹介させていただきます。

Emmanuel Pardoned!

Great news from Zambia. Emmanuel Banda, a Deaf man who was wrongly imprisoned for murder and spent 14 years behind bars, has, after years of appeals, been pardoned and released from prison! (He was framed by his brother-in-law and pleaded not guilty, but because he was an illiterate deaf man and was not given an interpreter or a proper defense, he was convicted.) But now he is pardoned and free, and we are so thankful for this! Neville would be rejoicing over this, as he travelled to Zambia several times and worked hard to petition for Emmanuel's release. Lewis picked Emmanuel up from the prison, and he is temporarily staying at Lewis' house.

Under guidance from Sam Begumisa, our senior advisor in Africa, we are now looking to support Emmanuel for his future by enrolling him at the DMI Bible School in Kampala. We believe this will give him the basic academic skills he needs to work and support himself. More importantly, after a hard life and wrongful imprisonment, Emmanuel needs spiritual rehabilitation and mentoring, and the Bible school will provide this. Having small classes, the Bible school will give him the personal attention and support he needs. After that, there are vocational school options for Emmanuel as well. We pray for success in his new life.

Kenya

Integrated School Growing

Our Immanuel School for the Deaf (ISD) in Kenya has become an integrated school – joining hearing and Deaf students together in the same learning environment. This is something of a new approach to education, encouraged by the Kenyan government. Rather than try to integrate the Deaf into hearing schools, this initiative integrates the hearing into established Deaf schools. Although the classes are segregated, all students learn to sign. ISD now has 126 hearing students to about 90 Deaf. To keep the identity and character of the school, there are limits to the number of hearing students that can attend, and this has only made the program more popular! Students and their families are lining up to join.

Volunteer for Immanuel School

Volunteers are always welcome at our DMI schools and churches, and we are so happy that Kathi Kitao from Japan is going to assist the Immanuel School for the Deaf (ISD) in Kenya. Three years ago, Kathi, together with her sister Karen Sette and DMI Japan chairperson Alayne Madore, went to visit the work of DMI in Africa. Kathi was impressed with the work of the school and offered to return as a volunteer when she retired from her position as a professor at Doshisha Women's College in Kyoto. She retired in March 2021, but because of Covid19 her departure has been delayed. She will leave at the end of April for three months. Kathi writes:

I have been asked to help develop a new curriculum, since Kenya is changing to a competence-based curriculum. I also plan to set up an extensive reading program and do workshops with the English teachers to help them implement this program. I'm now soliciting donations of books for the extensive reading library. I'm also hoping to tutor students on a 1-to-1 basis or in small groups, and do anything else the school wants me to. For myself, I'm hoping to improve my sign language proficiency by signing on a daily basis. I'm excited to have this opportunity to serve, and I pray that God will use me.

Disaster in Malawi

In late January, Cyclone Ana caused massive damage and disruption to Malawi, including the buildings, homes, fields, and livestock of our staff and Deaf community.

We immediately sent \$500 so our Director Elton could buy food and water.

- 200 Deaf families became homeless and need food, blankets and plastics to make temporary shelters.
- The roof, toilet, security fence, and dormitory have been destroyed at our vocational centre in Migowi
- Church buildings in Chikwawa and Zomba have been destroyed
- All of the crops planted in 2 of the 3 of our self-sustainability fund fields have been lost.

The quote to repair or replace the above is over 4 million yen. We give thanks that nearly 2 million has already been raised. We are hoping to be able to send money from Japan to help.

On a personal note from Elton, he has lost his house and all household furnishings, the projector he uses to teach the Deaf, as well as his tools, bicycles, and his 6 cows and 10 goats which were his livelihood.

The good news is, no lives have been lost, and we are very thankful for that!

Davao School Closing

It is with sadness that we announce that our school in Davao will be closing on March 31, 2022. The Davao school has for many years been a flagship school for DMI with, at its peak, over 100 Deaf students studying and living at the school. We are grateful that so many Deaf have graduated from the school, been a part of the Deaf church associated with the school, and gone on to live meaningful lives because of the education received at the school.

Joshua and Jocelyn Asuela have been like parents to many of the Deaf children studying at the school, and have done a superb job educating, guiding, and caring for them all. We

thank God for their diligence, skill, and big hearts in running the school.

Over the last few years, because of another school for the Deaf opening in the area, changing logistics, and, more recently, the pandemic, the number of students has drastically decreased, meaning it was no longer viable to continue running the school. The few remaining students have been guided to other schools, and sponsors have been notified and redirected to support DMI students at other schools. We're grateful for their ongoing support.

Deaf Ministries Institute is now in the process of selling the school building, and your prayers for this sale would be appreciated. The Davao Immanuel Church for the Deaf will continue at a new location yet to be decided.

This has been a challenging time for DMI and for the Asuela family, but we know that all things work for good for those who love the Lord. Your continued prayers are precious.

Uganda

Internship Program

The program commenced with 8 students this year – 4 men and 4 women, all Deaf – and they are settling in well. Students who graduated last year now have jobs. Thank you to all who helped financially in response to the request in our last newsletter. More than half of the money needed for the course has come in. All the interns are attending the deaf church every Sunday plus they have Bible teaching during their course. It is our prayer that each of the students this year will not only learn a trade but also come to know the Lord.

Boom time for Lira School

With the pandemic easing, it's wonderful to see so many students returning to the Neville Muir Comprehensive School in Lira, Uganda under Dennis' directorship. Registered students are now up to 350! Over 80 of these are Deaf, with 270 having other disabilities or special needs. We have never had so many students come for vocational training before! It's great to be able to make such a difference in the lives of these young people.

Yet the blessing of so many students also brings trials. We don't have enough classrooms for the students! With the rainy season starting in March and the government putting pressure on us to build proper facilities, we can no longer keep holding classes under trees. The quote to build four classrooms is ¥5,000,000.

Philippines: Fruitfulness in Ligao!

The staff and students were grateful that the school saw no typhoons this year. Because of this, the crops were bountiful. Pineapples, bananas, cassavas, taro, and ginger were planted. Grown mahogany tree seedlings are now ready to be planted at the border of the farm.

Lemons and native oranges are growing well, and some are bearing fruit now. Harvested rice was milled and sold.

And the farm animals are all in good condition, too – some livestock is being sold, and others raised for breeding.

It's great to see this level of self-sustainability! It's also good to see that many of the repairs that are being carried out on buildings damaged in last year's typhoons are being done by Deaf workmen. We see real increase in the motivation, productivity, and dignity of the Deaf through our churches, schools, and employment programs.

DMI Japan Builds New Structure

Over the last six months DMI Japan has made some adjustments to be more effective and efficient, and also to bring in younger people to help with new ideas. Instead of a large "working board", we have now divided into a smaller board and a volunteer corps. Most former board members have moved to the volunteer corps, and some new people have been added to both groups.

Board

- **Alayne Madore:** Founding member of the board when Neville formed it over 30 years ago, and has been board chair for most of that time. Many of you know her personally.
- **Jack and Keiko Marshall:** Missionaries with DMI, Jack was pastor of Osaka International Church (OIC) when DMI was first formed and has been associated with DMI ever since. Keiko serves as treasurer of DMI Japan.
- **Dave Taylor (new):** New to the DMI board, he is currently working with Alayne to communicate and coordinate Japan initiatives and activities. He is likely to become the future board chair. He is a university professor of business in Kyoto and has other experience that will be well suited for leading our board, and he looks forward to learning and serving the Deaf through DMI.
- **Mamiko Rellosa (new):** Currently in transition from secretary of OIC to focusing on DMI administration and translation. Having had Deaf friends at OIC, she has a passion to be involved in the work of DMI.

Volunteer Corps (partial list)

- **Karen Ellrick:** Long-time DMI Japan board member, she will continue in her technical and design role, and also train new members in tasks involving tech.
- **Nathan and Inge Mikaelson:** Long-time DMI Japan board members, they will continue helping with activities related to prayer and sponsorship.
- **Tony Barrera (new):** His focus will be visiting churches and developing ways to make DMI more known in Japan.
- **Wonders Fatoba (new):** Prayer is her passion, so she is heading up our new prayer initiative.

There are other volunteers, but their roles are still in the process of being established – we will introduce them to you over time.